

報道関係各位

2012年4月14日[土]～5月27日[日]

「MEC Award 2012 入選作品展」好評開催中！

平成24年度より、映像表現における新しい才能を発掘、積極的にバックアップすることを目的にSKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ 映像ミュージアムが新たにスタートした公募展「MEC Award—Media Explorer Challenge Award—」。35歳以下の若手映像作家やアーティストを対象に全国に広く応募を呼びかけ、応募総計57作品が集まりました。

第一線で活躍する審査員による厳選なる審査を通過し、本入選作品展へと進んだ5作品の中から、去る4月14日[土]に行われた最終審査にて、MEC Award受賞2作品を決定いたしました。

映像を取り巻く環境が劇的に変化し続けている現代社会は、ある意味、混沌とした広大な未知の領域が広がっている世界と言えるかもしれません。本入選作品展では、そうした世界に旅立とうとしている若き表現者達の力強い第一歩をご覧いただき、映像の未来に思いを馳せていただきたいと思います。

是非、ご取材・ご掲載頂きますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

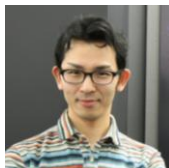
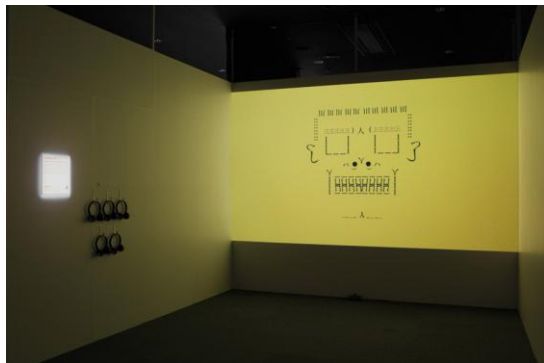
MEC Award 受賞作品（2作品）

賞：MEC Award

彩の国ビジュアルプラザ内施設の100時間までの無償利用権

受賞作：「CHANNELER」 受賞者：大橋 史 Takashi OHASHI

（共同制作者：羽深由理、石田多朗、ONIPARI、元木一成）



2012年
多摩美術大学大学院情報デザイン領域修了

《作家コメント》

このたびはMEC Awardを受賞させて頂きありがとうございます。周りの友人や素晴らしい音楽家達のサポートなくして受賞はありえなかったと思います。この受賞を励みに、さらなる飛躍に挑戦したいです。

受賞作：「Portrait of Occurrence」 受賞者：日野 晴香 Haruka HINO



2010年
武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業
2012年
武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了

《作家コメント》

映像を使った作品として、作品の構造やシステムを評価いただけたことを非常にうれしく思い、今後の励みとなりました。短い作品ですが、制作にあたっては多くの時間、友人に協力いただきました。本当に感謝しています。

入選作品 (50音順)

作家名:「Round and Round」
作品名:戸田 祥子 Shoko TODA



作家名:「Uncle and Girl」
作品名:内藤 日和 Hiyori NAITO



作家名:「海辺のホームレス」
作品名:野口 健吾 Kengo NOGUCHI



※各作家の詳細につきましては、公式ホームページ (<http://www.skipcity.jp/mec2012/>) をご確認ください。

【審査員 総評】

塩田周三 Shuzo SHIOTA (ポリゴン・ピクチュアズ代表取締役)



若い作家を対象とする映像コンペティションが数多ある中、MECAwardが際立つのは、その審査を映像のみならず、本映像ミュージアムに展示される状態を含めた作品性に対して行う点である。一次・二次審査を通過した5作品を改めて本ミュージアムの展示空間にて体感した時、どの作品も予想を遥かに上回り素晴らしかった。その時、自画自賛ではあるが、我々審査員は良いセレクションを行ったと納得した。コンテンツの発信と享受が容易になり「一億総クリエイターの時代」とも言われる昨今、一方では「真の作品性とは何か」がまさに問われている。MECAwardが、映像のみならず音声・視聴環境を含めた作品性を賞するのはその問いに対する模索である。今回入賞した5名の若いアーティストたちがメディア・エクスプローラーとして新たな世界を開拓してくれることに期待したい。

四方幸子 Yukiko SHIKATA (キュレーター、東京造形大学特任教授)



生まれたてのMECAwardの審査、それは生みの苦しみと喜びを他の審査員や主催者と共有するかけがえのない体験となった。選考の基準は、各映像分野の美学でも技術的完成度でもなく、既存のフレームを批評的直感によって踏み越えていくアプローチや問いの強度にほかならない。そこでは審査される作品だけでなく、審査する側の「MEC度」が問われたことも付記しておく。音と言葉における意味／非意味を往還する大橋史作品のユニークさとクオリティ、日野晴香作品が映像を介して提出した身体・言語・記憶をめぐる関係性。長い議論の末に選ばれた初のMECAwardは、受賞者そして映像の未来へのチャレンジを応援するとともに、アワードの未来に向けたエールでもある。最後に、今後はインターネットも含むより広範な映像領域からの応募があることを期待したい。

森 弘治 Hiroharu MORI (アーティスト)

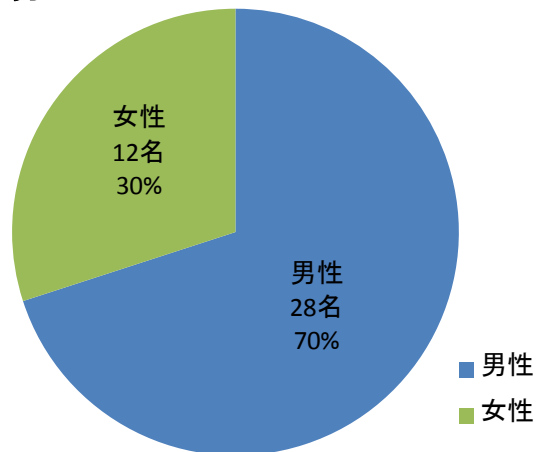


今回の公募はコミュニケーションというテーマが設定されており、全体を通して人間関係の中で起こる心理描写や疎外感を表す作品が多かったように思います。コミュニケーションという事を多角的に見てみると表現の幅も広がるかもしれません。作品の中で特に興味を引かれた表現は、ドキュメンタリー的な要素を用いて、ある出来事を描写し、映像として視覚的に語り直す手法の作品がとても新鮮に思えました。最終的に選出された5作品は、どの作品を観ても異なる特徴を発見することができました。また、入選作品展は、現代の映像表現の1つの指標になっているように思います。受賞作品に与えられる機会(展覧会の実施や制作環境の提供)は、若い芸術家の制作活動において、とても大切なことで、そのような意味でも芸術家に優しいアワードではないかと思いました。

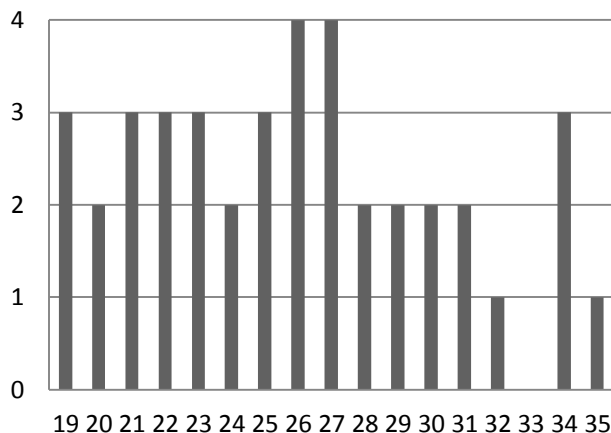
【MEC Award 2012 応募状況】

応募総数 57作品(40名)／平均年齢 25.8歳(最年少19歳、最年長35歳)

●男女比



●年齢分布



MEC Award 2012は、作品テーマを「コミュニケーション」とし、下記応募条件にて募集を行いました。

- 募集作品: 15分以内の映像作品
 - ・2011年3月～2012年2月までに完成または発表した作品に限る。展示方法は自由。
- 応募条件:
 - ・35歳以下の方(グループの場合はメンバー全員が条件を満たすこと)
 - ・日本在住の方(国籍は問いません)
 - ・複数作品(4作品まで)応募可

【審査の流れ】

- 1) 一次審査 ※2012年2月中旬実施
 各審査員が応募作品資料をもとに二次審査へ進む約20作品を選出。
- 2) 二次審査 ※2012年2月28日実施
 全審査員による審議の結果、入選5作品を決定。
- 3) 最終審査 ※2012年4月14日実施
 実物作品審査にて、MEC Award受賞者2名を決定。

【入選作品展 概要】

名 称	MEC Award 2012 入選作品展 -Media Explorer Challenge 2012 finalists exhibition-
会 期	2012年4月14日(土)～2012年5月27日(日)
会 場	SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ 映像ミュージアム 埼玉県川口市上青木3-12-63
開 館 時 間	9:30～17:00(入場は16:30まで)
休 館 日	月曜日(祝日の場合は翌平日)
料 金	大人500円、小中学生250円(常設展示もご覧いただけます)
入 選 作 家	大橋 史、戸田祥子、内藤日和、野口健吾、日野晴香(50音順)
主 催	埼玉県
後 援	埼玉県教育委員会／川口市／川口市教育委員会
企 画	(株)デジタルSKIPステーション
公 式 H P	http://www.skipcity.jp/mec2012
問 合 せ	SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ 映像ミュージアム TEL:048-265-2500

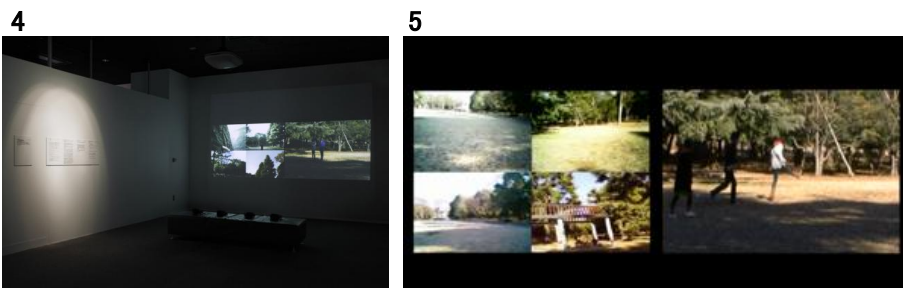
【広報用プレス画像】

画像1～16を広報用にご提供致します。画像の請求、お問い合わせは株式会社デジタルSKIPステーション 広報までご連絡ください。Tel : 048-264-7777 / Eメール: info@skipcity.com

【MEC Award 2012 受賞】大橋 史《CHANNELER》



【MEC Award 2012 受賞】日野 晴香《Portrait of Occurrence》



【MEC Award 2012 入選】 戸田 祥子 《Round and Round》

6



7



【MEC Award 2012 入選】 内藤 日和 《Uncle and Girl》

8



9



10



【MEC Award 2012 入選】 野口 健吾 《海辺のホームレス》

11



12



13



MEC Award 2012 授賞式の様子

14



15



16

